

慶應義塾大学大学院 文学研究科 後期博士課程

哲学・倫理学専攻 哲学分野

3つのポリシー

【ディプロマ・ポリシー】

哲学・倫理学専攻（哲学分野）では、後期博士課程修了時に身につけているべき能力として以下のものを定め、かつ、学則に従って修了要件を満たし博士論文審査に合格した学生については、この能力を身につけた者と認め、博士（哲学）の学位を与える。

1. 博士論文の執筆を通じて、当該領域の研究に独創的な寄与を為し、その分野の研究の発展に大きく貢献できる。
2. 研究対象とする分野について、最新の研究動向や研究課題に精通し、包括的で深い専門知識を有し、自らの研究成果によって哲学の分野に対して広い範囲での貢献ができる。
3. 専門的な知識を通じて諸文化の歴史的、文化的特性を理解し、他者との交流を通じて自ら課題を発見し、それを解決するための議論や実践に資する高度なリサーチ能力およびプレゼンテーション能力を身につけていることで、高度なリテラシーを備えた社会人、研究者、教育者として、社会の発展に独自の貢献ができる。

【カリキュラム・ポリシー】

哲学・倫理学専攻（哲学分野）では、ディプロマ・ポリシーの達成を目的として以下のカリキュラムを編成する。

1. 哲学または関連諸領域の研究に独創的な貢献をなすうる博士論文の執筆を可能とするため、指導教員が担当する特殊研究、特殊研究演習科目を中心に科目を履修するとともに、指導教員が中心となって個別論文指導を行ない、高度なリサーチ能力と課題発見能力、論述力を養う。
2. 専門とする領域において最新の研究動向や研究課題に精通し、専門的研究を通じて学界への独自の貢献をするために必要な高度なリサーチ能力、課題発見能力、一次資料分析能力、議論構成力を養成するため、特殊研究および特殊研究演習科目を設置する。また、研究成果を学会や専門誌で発表することを目的として具体的な指導を行なう。

【アドミッション・ポリシー】

哲学・倫理学専攻（哲学分野）後期博士課程では、次のような資質をもつ学生を求めている。

1. 自身の研究領域および関連分野について、高度な専門的知識をもっている。
2. 修士課程における専門的研究をふまえて、博士論文につながる独創性のある研究計画を自ら考え、それを具体的な形にまとめることができる。
3. 諸言語の一次資料および二次資料を正確かつ批判的に読むことのできる分析的な読解力と、独創的な学術的論考を緻密に展開するための十分な表現能力を身につけている。
4. 博士課程修了後の社会人、研究者、教育者としてのキャリアについて、積極的、現実的かつ具体的に考えている。